

群馬大学多職種連携教育研究研修センター ～西太平洋地域における多職種連携教育の普及と推進に向けて～



群馬大学多職種連携教育研究研修センター

時田佳治

群馬大学に籍を置く傍らWHO本部でボランティアを経験。WHOCCではIPE研修コースを担当、日本保健医療福祉連携教育学会で編集委員も務める。

共著者

李範爽 牧野孝俊 松井弘樹

篠崎博光 蒲章則 渡邊秀臣

はじめに

WHO 協力センター「多職種連携教育研究研修協力センター (WHO Collaborating Centre for Research and Training on Interprofessional Education)」は、2013年に群馬大学がWHO西太平洋地域事務局により国内初の保健人材育成分野のWHO協力センターとして指定を受けました。2017年の再指定を経て現在では2期目になります。

群馬大学は1997年の群馬大学大学院医学部保健学科の設置の時から多職種連携教育 (Interprofessional Education: IPE) のカリキュラムを実施しており、2008年には日本国内の特色あるIPEプログラムを実施している10大学 (現在は11大学) によるネットワークである日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク (Japan Interprofessional Working and Education Network: JIPWEN) を立ち上げ連携活動を行っています。



All Together Better Health (ATBH) IXでセンター教員が企画運営を行ったワークショップの様子

当センターが、2期目にWHOと締結した取り決め事項 (TOR) は以下の通りです。

TOR 1: 世界や西太平洋地域レベルにおける保健人材育成教育改革の観点からIPEの理解を高めることへの貢献。

TOR 2: ユニバーサルヘルスカバレッジの実現に資する有能な保健人材の育成を中心としたIPEの効果に関するエビデンスの収集と普及。

TOR 3: 他のWHO協力センターと連携して、人々を中心とした包括的医療サービスならびに公衆衛生機能の実現に向けた教育人材育成能力の拡大を目指したIPE研修コースの提供。

本稿では当センターがこれらのTORに基づき行っている5つの活動について写真を交えて紹介します。

活動紹介

Activity 1: WHO / WHO西太平洋地区事務局のIPE・CPに対する取り組みの普及

当センターは、IPEや多職種協働 (Collaborative Practice: CP) の取り組みの普及を目指して、他のWHO協力センターやJIPWENと国際シンポジウムやワークショップの開催、国際学会や会議に出席しています。2018年には、2月の国際的な政策に関する国際保健問題を中心としたPrince Mahidol Award Conferenceの出席、11月にThe 4th Annual National Health Professional Education Reform Forumにてセンターの活動を紹介する講演とIPEやCPの効果のエビデンスに関するコメントを述

べました。また、8月にはJICA GLO+UHCプロジェクトとの共催で国際シンポジウム "Introduction and Implementation of Interprofessional Education in Asia" を開催し、タイ・日本・フィリピン3か国におけるIPEの導入と実施をテーマとした議論を行いました。9月にはニュージーランドで開催されたATBH IXに参加し学会運営や研究発表を行いました。また、IPEを促進し看護教育を発展させる目的で北京協和医学院 (PUMC) と連携しており、11月にはPUMC主催のInternational Nursing Education Symposiumで講演を行い、共同研究に関する会議に出席しています。

Activity 2: 多職種連携教育・協働の効果に対するエビデンスの収集

IPEにおけるエビデンスは、保健人材育成ガイドラインにおいて数量的にも質的にも低いと評価されました。そのため、当センターではJIPWENと連携し、日本や西太平洋地域の各大学における資格取得前のIPEの教育効果を検討しています。その検証の結果、IPEプログラム、実施のタイミング、教育効果のエビデンスを収集し、2017年は、5篇の論文が国際的な学術誌に受理されました。

Activity 3: 系統的文献調査によりIPEとCPの効果の検証の実施

当センターはIPEに関するエビデンスを系統的文献調査により収集・解析し、データベースにまとめています。このデータベースにはIPEの効果の検証や、対象集団、IPEの内容、効果検証の解析ツールの種類といった視点からIPEに関するエビデンスを評価し、より良いチー

ム医療教育の方法を模索しています。センターでは2013年にWHOから刊行された“Transforming and scaling up health professionals’ education and training: WHO Education Guidelines 2013”と同様の系統的文献調査からIPEのエビデンスを収集しており、2018年からは患者安全の分野に特化した調査も始めました。これらの成果については学術論文として投稿を進めています。

Activity 4: WHOの調整のもと、西太平洋地区の教育開発センターと協力して多職種連携教育ワークショップを開催

当センターは、教育開発センター（Education Development Centre：EDC）と共同で西太平洋地域の大学に訪問し、IPEとCPに関する経験を共有するための合同ワークショップや講演を行っています。その一例として、ラオスで唯一大学レベルで医師・薬剤師・歯科医師・看護師・医療技師を養成しているUniversity of Health SciencesへのIPEの導入があります。2014年に当センター主催のIPEワークショップ開催が実現し、その後教育プログラム導入までの4か年計画が始まることとなりました。4か年計画は、Phase1：IPEの概念の導入、Phase 2：プログラムデザイン、Phase 3:IPEプログラム運営組織の構築、Phase 4：プログラムの評価と実施に分けて行われ、WHOとWHOCC共同活動の成功事例として紹介されました。

Activity 5: 教育者ならびに保健医療関係者に対する研修コースの開催

当センターではJIPWEN大学や他のWHO協力センターとともに、IPEプログラムの導入や改善に関心を持つ教員や医療従事者に対して、自施設でIPEプログラムを導入するための研修コースを行っています。この研修コースでは、当

センターが独自に開発したツールキットをもとに参加者がIPEプログラムを導入するための計画を立案します。

この取り組みは2013年に始まり、2018年には16名（フィリピン7名、ラオス1名、インドネシア8名）が参加しました。各国のIPEとCPの現状や研修修生による講義、兵庫県立大学地域ケア開発研究所から災害医療の観点からのIPEの重要性や、群馬大学に加えて千葉大学や札幌医科大学のIPEプログラムを紹介しました。研修後半に参加者はツールキットに基づき行動計画を作成し、各々の計画を発表しました。今後参加者は自国でIPEプログラムの導入・改善を行い、当センターはその状況を調査しながらそれぞれのプログラムの導入

や改善を支援していく予定です。

最後に

UHCの達成に向けてIPEやCPの重要性は増しています。当センターの活動が西太平洋地域の医療の質の改善に貢献できるよう他のWHO協力センターと連携して努めて参りますのでご支援のほどよろしくお願いいたします。



ラオスIPEワークショップの様子



IPEトレーニングコースの様子

表1 IPEトレーニングコース国別参加者一覧

開催年	参加者出身国	人数
2013	フィリピン	2
	インドネシア	2
2014	韓国	1
	モンゴル	2
	インドネシア	2
2015	トルコ	1
	フィリピン	3
	ラオス	2
2016	インドネシア	2
	韓国	3
	モンゴル	2
	ラオス	1
2017	インドネシア	3
	フィリピン	1
	モンゴル	1
	ベトナム	1
	インドネシア	4
	ネパール	2
	タイ	8
2018	イギリス	1
	フィリピン	7
	ラオス	1
	インドネシア	8